

狸小路と人を音でつなぐ新たな観光コンテンツ
SO*ZOプロジェクト実践報告

斎藤 一 安田 光孝
新川 貴彬 植田 哲平
北海道情報大学

A Report of SO*ZO Project on Tanukikoji Shopping Street

Hajime SAITO, Mitsutaka YASUDA, Takaaki SHINKAWA
and Teppei UEDA
Hokkaido Information University

平成24年11月

北海道情報大学紀要 第24巻 第1号別刷

〈報 告〉

狸小路と人を音でつなぐ新たな観光コンテンツ SO*ZO プロジェクト実践報告

斎藤 一¹ 安田 光孝¹ 新川 貴彬² 植田 哲平³

A Report of SO*ZO Project on Tanukikoji Shopping Street

Hajime Saito¹ Mitsutaka Yasuda¹ Takaaki Shinkawa² Teppei Ueda³

1. はじめに

SO*ZO は、平成 22 年度に札幌で開催された SMF(札幌メディア・アート・フォーラム)トライアル 2010^[1]に参加する為に発足した本学の学生プロジェクトである。SMF トライアル 2010 では、狸小路で活動している路上の演奏者やダンスを踊っている人(以後、総じてパフォーマー)は、狸小路の魅力の一つであり、狸小路に人を呼び込む観光の新たな資源になると考え、彼らと協力して、狸小路商店街への思いを綴った楽曲とプロモーションビデオ(以下、PV)を制作するという企画を発表し、準グランプリを頂いた。その後も SO*ZO は活動を続け、「まちづくり」の観点で企画を練り直し、「さっぽろ学生まちづくりコンテスト 2010^[2]」に応募、優秀企画に選ばれた。本稿では、平成 23 年度に SO*ZO がその企画に基づき活動した報告を行う。

2. SO*ZO プロジェクト

SO*ZO プロジェクトは、平成 23 年度の北海道情報大学情報メディア学部学生 7 名(4 年生:植田 哲平, 新川貴彬, 高橋啓哉, 若林京介, 3 年生:川村実里, 2 年生:新谷渚, 野呂明音(図1))により構成されており、(1)狸小路のパフォーマーとともに楽曲と PV 制作を行う「音楽班」、(2)パフォーマーと狸小路商店街関係者との友好的な関係構築支援を模索する「ルール・観光プラン班」、(3)これらの活動を、Web を通じてアピールする「Web 班」に分かれて活動を行った^[3]。

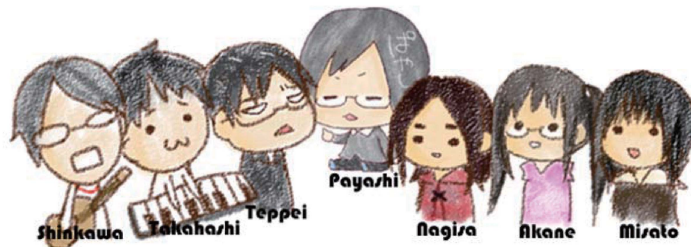


図 1 SO*ZO のメンバー構成

¹北海道情報大学 情報メディア学部 情報メディア学科 准教授

²北海道情報大学大学院 経営情報学研究科 経営情報学専攻 修士 1 年

³北海道情報大学 情報メディア学部 情報メディア学科 (平成 24 年 3 月卒業)

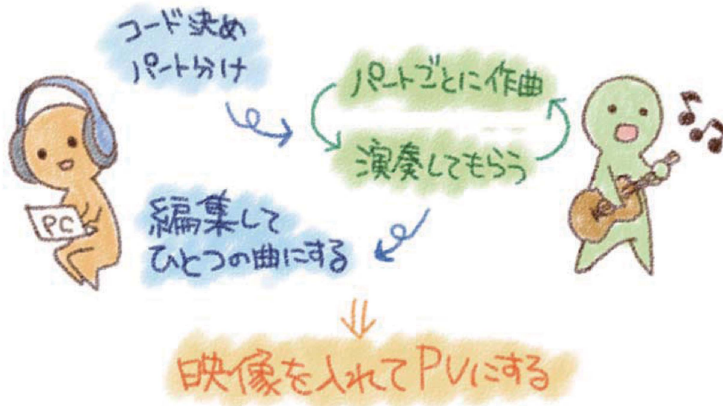


図 2-1 SO*ZO による楽曲と PV 制作の流れ

2.1 音楽班の活動

図 2-1 は、SO*ZO による楽曲と PV 制作の流れを示している。まず SO*ZO の音楽班でコードのみのデモ音源を制作し、曲をパートに分割する。次に、札幌狸小路商店街へ足を運び、パート別に何組かのパフォーマーに楽曲と PV 制作の協力を依頼する。交渉成立後、デモ音源を聴いてもらい、その場で担当パートの作詞をしてもらう(図 2-2)。ライブ感を出すために、ボーカルとギターパートのレコーディングをその場(狸小路)で行う(図 2-3)。レコーディングした音源を大学で編集し、楽曲完成させる。また、レコーディング時に撮影した映像を編集し、楽曲と合わせて PV にする。

このように SO*ZO がパフォーマーと制作した楽曲の一覧を表 1、また、歌詞の一部を付録1に示す。



図 2-2 狸小路商店街でのパフォーマーとの交渉の様子

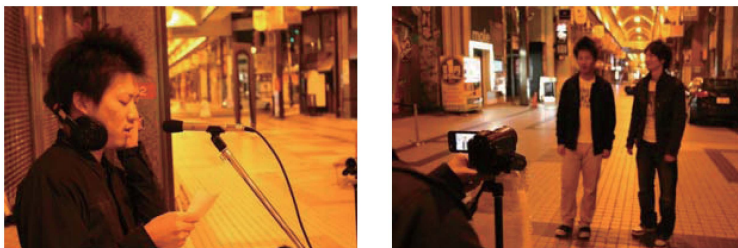


図 2-3 狸小路でのレコーディングと撮影の様子

表 1 SO*ZO が制作した楽曲一覧

タイトル	作詞	作曲	アレンジ	備考
ストリート*ソング	サムコロ, バンズ, 川本康博(カフェキネマ), sound play, 新川貴彬	新川貴彬	高橋啓哉	SO*ZOが初めてストリートミュージシャンとコラボして作った曲である。制作期間はわずか一週間。実際に札幌狸小路商店街へ出向き、その場でレコーディングをした。SMFトライアル2010という大学合同のコンペティションの大会にて発表し、準グランプリを獲得した。
HomE	サムコロ, presented by yuuki, 新川貴彬	新川貴彬	高橋啓哉	曲のタイトルである「HomE」はサビを担当して頂いた、サムコロが命名した。ストリートミュージシャンにとって「狸小路=帰る場所」という意味が込められている。曲のテーマとしては「狸小路への感謝の想い」を各ミュージシャンに表現して頂いた。曲のテンポは速めで明るい曲になっている。
GuilD	presented by yuuki, 菊地良平, 新川貴彬	新川貴彬	高橋啓哉	「優しい歌が溢れるこの場所で会おうよ!」というミュージシャンからリスナーへのメッセージが詰まった曲である。この曲は「HomE」に比べるとテンポが遅く、ゆったりとしたバラード調の曲になっている。コラボ曲の中では、一番ストリートの雰囲気表現できている曲である。
S Ong*Zone	新川貴彬	新川貴彬	高橋啓哉	平成24年3月16日に北海道情報大学卒業祝賀会にて演奏した卒業ソングであり、「ストリート*ソング」を、コード進行を変えずに作曲し直した曲である。SO*ZOメンバーからお世話になった方々への感謝の気持ちを表現した曲であるため、ボーカルはSO*ZOメンバーの合唱形式になっている。

2.2 ルール・観光プラン班

ルール・観光プラン班では、アンケートやヒアリング調査を行い、それらを札幌市の条例や、国で決められている法律と照らし合わせルールを作成することを試みた。また、アンケートで収集した情報をまとめ、狸小路を一日中楽しめるような SO*ZO 独自の観光プランを提案した。詳細については、3・4 節で説明をする。

2.3 Web 班

活動内容を随時紹介するため、SO*ZO では、Web および twitter を活用した。Web には、制作した曲を紹介するページや、SO*ZO のキャラクター「たぬぼん(図 3)」と SO*ZO メンバーとの架空のお話「ハートフルストーリー」等を掲載している(図 4)。楽曲を紹介するページでは、制作した PV を Youtube やニコニコ動画にアップロードし、それを SO*ZO のサイトから見られるようにしたコンテンツも含まれている。また、twitter を活用し「たぬぼん」のつぶやきとして SO*ZO の活動を告知した他、パフォーマーの twitter アカウントもフォローすることで、リツイートと呼ばれる他者のつぶやきの引用を発信する方法で、彼らの演奏情報や楽曲情報も宣伝するようにした^[4]。

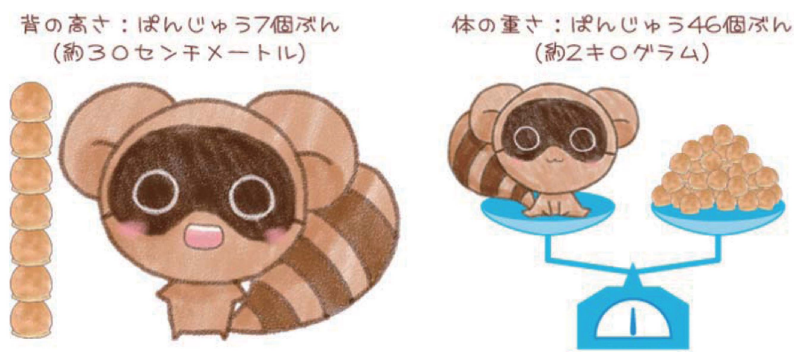


図 3 たぬぼん



図 4 SO*ZO の Web サイト^[4]

3. パフォーマーに関するヒアリング・アンケート調査

本節では、4 節で説明するパフォーマーに関するルールや観光プランを策定するための、ヒアリング・アンケート調査について説明する。

3.1 狸小路商店街店舗へのヒアリング

狸小路商店街の 20 店舗に対し、パフォーマーの印象について、電話を使用したヒアリングを行った。調査期間は平成 23 年 5 月 30 日から 6 月 3 日までである。ヒアリング項目は下記の 4 項目である。ヒアリングの結果を以下にグラフで示す。

1. 夜間の狸小路でパフォーマーが活動している事を知っているか
2. パフォーマーに対する印象はどういったものか
3. パフォーマーがライブを行ったら見に行きたいか
4. パフォーマーは新たな観光コンテンツになり得ると思うか

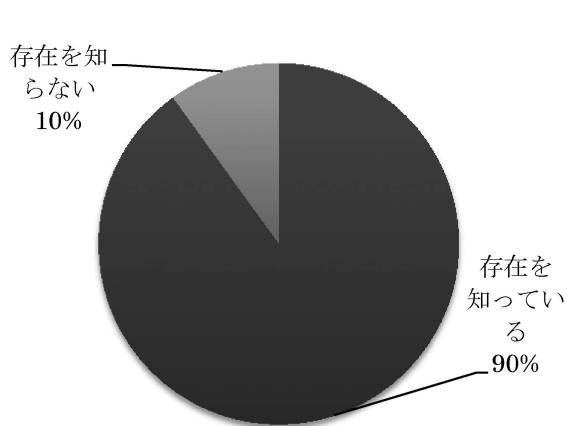


図 5-1 パフォーマーの認識

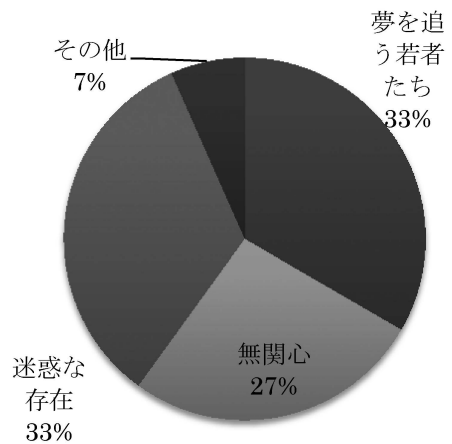


図 5-2 パフォーマーの印象

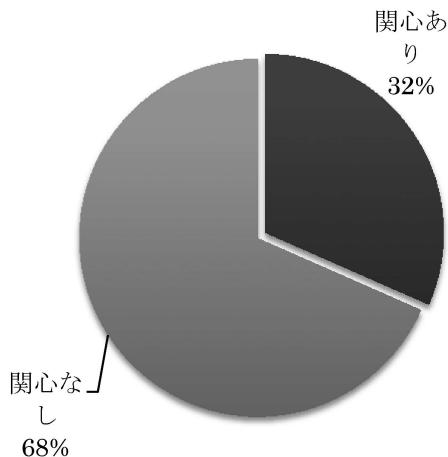


図 5-3 パフォーマーのライブへの関心

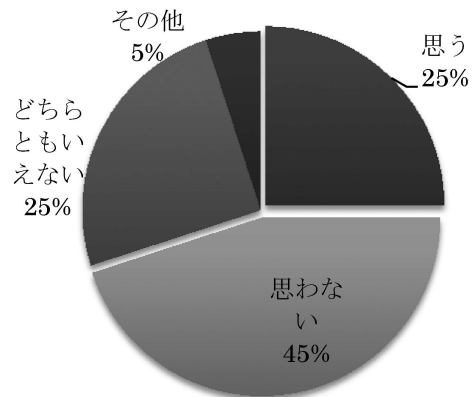


図 5-4 観光コンテンツになりうるか？

ヒアリングにより、9割の方々がパフォーマーの存在を認識していたが、パフォーマーに対する関心は低く、あまり良い印象を持っていないことが分かった。好印象の方々は、少数派ではあるが存在し、「頑張っているので応援してあげたい」、「楽しそうにだが真剣に活動している」と思っているが、無許可で演奏をしているパフォーマーを公には応援できないというのが実情のようであった。尚、悪印象の理由として、「マナーが良くない」、「ゴミがその場で多く投げ捨てられている」、「無断でコンセントを利用されている」等となっていた。

3.2 パフォーマーへのヒアリング

パフォーマーへのヒアリングは、下記の項目を14組に対して行った。

- ・グループ名はなにか
- ・どのようなジャンルの音楽を演奏しているか

- ・週に何回活動しているか
- ・パフォーマー同士の交流はあるのか
- ・自分たちで作成した Web サイトはあるのか
- ・他のパフォーマーと合同イベントを開いた時参加したいと思うか
- ・狸小路で活動する際のマナー・ルールはあるのか
- ・Twitter で活動情報を流しているのか
- ・狸小路にはどのような印象を持っているのか

主な結果のグラフを以下に示す。

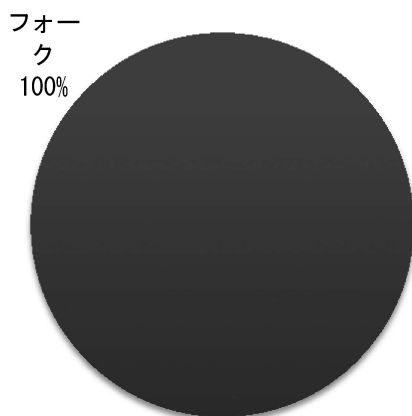


図 6-1 演奏している音楽のジャンル

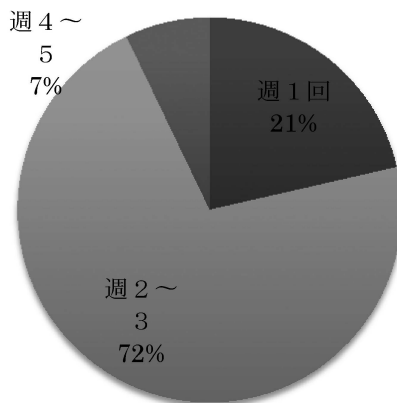


図 6-2 一週間の演奏回数

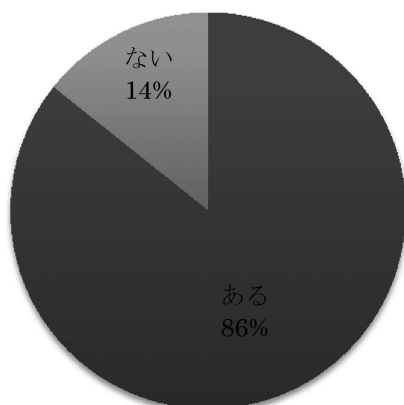


図 6-3 パフォーマー同士の交流

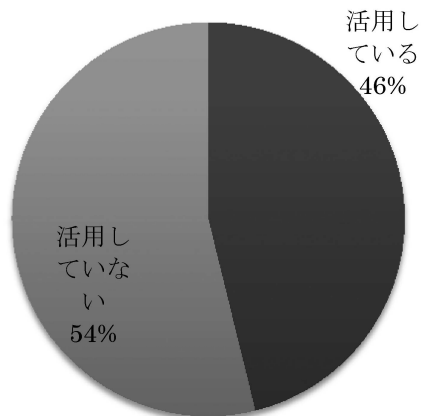


図 6-4 Twitter の活用状況

Twitter を活用しているパフォーマーは我々の予想より少なく、ブログ等で情報を公開している方が多かった。「他のパフォーマーと合同イベントを開いたら参加したいと思うか」という質問に対して

は、全パフォーマーが「参加したい」と答えた。狸小路で活動する際のマナー・ルール等はあるかという質問には、全パフォーマーがないと答えた。しかし、通行人の邪魔をしない、隣で歌っている人の邪魔をしない、ゴミは持ち帰る等を、気をつけていることがわかった。

3.3 市民へのアンケート調査

一般市民へアンケート調査を、平成23年10月1日・2日の2日間行われたSMFトライアル2011の会場である、札幌駅前地下歩行空間で行った。また、同年10月8日・9日に行われた北海道情報大学の大学祭においても、アンケート調査を行い、地下空間で84名、大学祭で109名、合計で193名の方々の回答を得た。アンケートの主な項目と結果は下記の通りである。

- ・夜の狸小路でパフォーマーが活動をしているところを見たことがあるか
- ・ストリートパフォーマーに対してどのような印象を持っているのか
- ・パフォーマーが演奏しているような曲のジャンルはどれだと思えるか
- ・狸小路のパフォーマーを集めてライブを開催した場合、見に行きたいと思うか
- ・Twitterで狸小路のパフォーマーが自分達の情報を流している事を知っているか

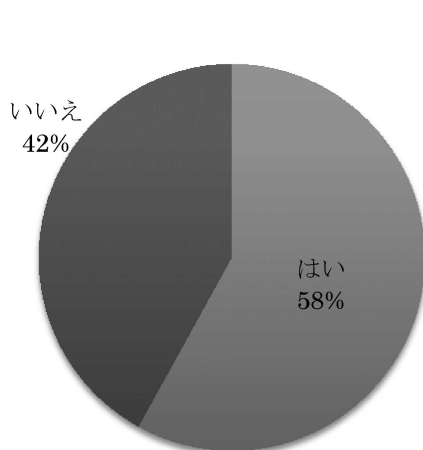


図 7-1 パフォーマーの活動を見たことがあるか

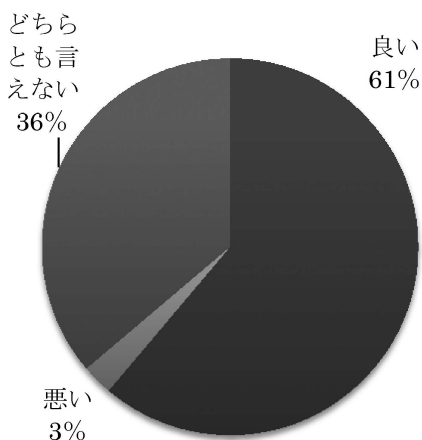


図 7-2 パフォーマーの印象

半数以上の方々が、パフォーマーへの良い印象をもっており、悪印象の方々は、1割にも満たないという結果となった。「狸小路のパフォーマーを集めてライブを開催した場合、見に行きたいと思うか」という設問にたいしては、半数の方々が行きたいと答えている。行きたくないと回答した人たちの中には、無料ならば行きたいと答えた人や、場所によっては行きたいと思うと答えた人も少なくなかった。また、パフォーマーがTwitter等で流している情報は市民にはあまり知られていないことがわかった。

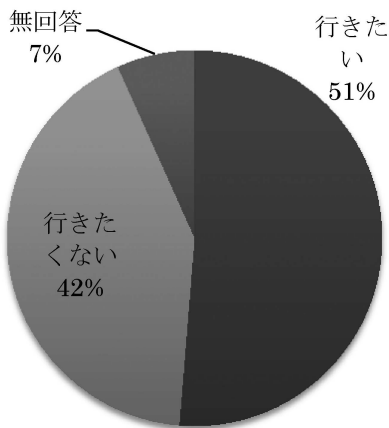


図 7-3 パフォーマーのライブへの関心

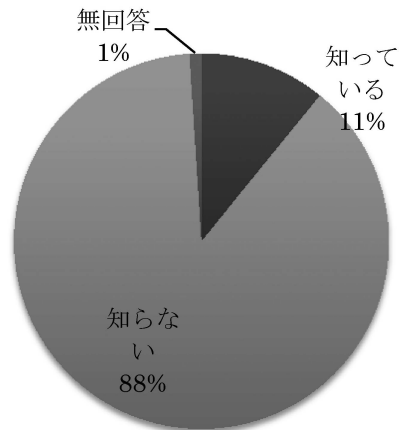


図 7-4 パフォーマーのツイートの認知

3.4 ヒアリング・アンケートのまとめ

狸小路商店街へのヒアリング結果から、狸小路商店街の方々にはパフォーマーをあまり快く思っていない。しかし、商店街の方々の中には密かに応援している方もおり、その数は少なくはないことがわかった。パフォーマーからのヒアリング結果は、狸小路商店街の方々には良い印象を持っている方がほとんどで、商店街と良好な関係を築きたいと思っていることが分かった。市民向けのアンケート結果からは、パフォーマーに良い印象を持っている方が半数以上おり、パフォーマーの合同ライブを開催したら見に行きたいと思ってくれている方も多いたことがわかった。

4. 狸小路商店街とパフォーマーの魅力を堪能できる観光プランの提案

4.1 商店街とパフォーマーの協力に関する全国的事例

宮城県の仙台市の商店街では「STREET-RAINBOW^[5]」というパフォーマーでもあるボランティア団体が、街のマナー、モラルアップの為にクリーン活動を行っている。彼らの活動により、商店街に掲げられていたパフォーマーを批判する横断幕が減ってきている。

市町村や商店街側から、パフォーマーに活動の場を与えた事例もある。埼玉県川越市では、かつて店舗があったスペースを広場に、パフォーマーが自由に活動できるようにしている^[6]。また、千葉県柏市では市が若者（パフォーマー）との融和する事を目指し、公共スペースをつくっている^[7]。しかしながら、現状では、解放されたスペースは人通りが少ない場所であったり、活動できる時間が限られていたり等、パフォーマーが満足できる結果とはなっていないようである。

4.2 ローカルルールの提案

S0*Z0 では、狸小路商店街の方々のパフォーマーの印象を改善するべくローカルルールの提案を行った。ローカルルールはパフォーマーの方々に向けたものと、市民に向けたものの2種類ある。

パフォーマー向けのローカルルールは次の通りになる。

- ・ 活動場所にゴミは残っていないか
- ・ 開店中のお店の近くで演奏していないか
- ・ 電気の無断使用はしていないか
- ・ 観衆が電気の無断使用はしていなかったか
- ・ 通行人もしくは、車の走行妨害をしていないか
- ・ 節度のある音量か

市民に向けたローカルルールは次の通りになる。

- ・ 観覧時に広がって観覧していないか
- ・ 通行人の妨害をしていないか
- ・ ゴミのポイ捨てはしていないか
- ・ 必要以上にさわいでいなか
- ・ 電気の無断使用はしていないか

ルールは、札幌市の条例や法律(騒音規制法第 17 条等)を照らし合わせ検討を進めたが、パフォーマーの活動について明確に規定できることは、個人的な感覚や常識に左右されることが多く、作成したルールは結果的にモラルの範疇に留まってしまった。

4.3 観光プランの提案

SO*ZO の活動は、パフォーマーを活かし、狸小路に多くの人を導けないかと模索していくものである。多くの人をパフォーマーの力によって狸小路に導くことが可能であれば、狸小路商店街の方々のパフォーマーに対する意識改善が可能になる。そこで SO*ZO では、日中の狸小路および周辺での買い物や観光と、夜間のパフォーマーの見学とを組み合わせた観光プランを提示することにした。これは、一般の方々に向けたもので、観光客に配布できるようなパンフレットの作成を行うことにした。具体的には、朝から楽しめる店の情報・場所を提示し、その後昼食等のおすすめの店を紹介し、最後に夜の狸小路でパフォーマーの演奏を見たり聞いたりして楽しめるようなプランである。これにより、狸小路に賑わいを見せるような仕組みを作ることが狙いである。図 8 は、提案する観光プランである。

5. おわりに

本稿では、SO*ZO の企画提案の背景と、平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月までの一年間を通して行った活動を、音楽班、Web 班、そして、ルール・観光プラン班に分けて報告した。楽曲は、パフォーマーと 3 曲以上共作し、SO*ZO の Web サイト^[4]から視聴できるようになっている。ルール・観光プラン班は、ストリートパフォーマーを快く思っていない人の意識改善の為にルールの提案と、人々を誘引する方法として観光プランの制作を行った。SO*ZO の活動が、今後、狸小路商店街の方々と、パフォーマーの方々との間にある様々な問題が解決に向かう一助けになる事ができれば幸いである。



図 8 SO*ZO が提案する観光プラン「札幌狸小路 SO*ZO 観光マップ」

謝辞 本研究の一部は、札幌市市民まちづくり局「学生まちづくりコンテスト 2010」まちづくり奨励金により行われました。関係各位に感謝申し上げます。

参考文献・サイト

- [1] 札幌メディア・アート・フォーラム-SMF アーカイブ 2010 年度主要活動-, <http://www.smf.vc/2010/>
- [2] 札幌学生まちづくりコンテスト 2010, <http://www.city.sapporo.jp/shimin/jichi/kihon/torikumi/contest/index10.html>
- [3] 新川 貴彬, 植田 哲平, 阿部 祐介, 齋藤 一, 安田光孝, “学生プロジェクトによる CGM に基づく「まちづくり」の提案 ～ 狸小路と人を音でつなぐ新たな観光コンテンツ SO*ZO プロジェクト ～”, 観光情報学会第8回全国大会発表概要集, pp.28-29, 2011.6.
- [4] SO*ZO サイト, <http://mccprjl.do-johodai.ac.jp/sozo/>
- [5] ストリートレインボウ, <http://street-rainbow.com/>
- [6] 埼玉県公式サイト, <http://www.pref.saitama.lg.jp/page/906-20091228-564.html>
- [7] 柏市ストリートミュージシャン認定ガイド, <http://www.kashiwa.ne.jp/nintei/>
- [8] 青柳文信, 路上音楽-STREET MUSICIAN'S BIBLE-, 星雲社, 2006.
- [9] 青柳文信, 路上ライブを楽しむ本 ーなぜ駅前広場の人気を独占することができるのかー, 株式会社スタイルノート, 2009.

付録 1

ストリート*ソング

"そうぞう" 超え つながる僕らの歌
今ここで一つになる

この街の中心にある アーケード街に原点ある
うれしい事、悲しい事 色んな想いかげめぐる
出会いに感謝して 今日も歌ってる
本当にありがとう 伝えたいんだ

歌声にのせ僕ら一緒(ひとつ)になる
響かせよう 君のもとへ この歌を

ここは僕らの帰る場所 唄が響いてる
落ち込んだ時、辛い時 気づけば僕らまたここに

この街に溢れてる 音楽が集まる場所
楽しい事、辛い事 ギターを片手に歌う
紡いだメロディーが 奇跡起こすんだ
みんなの心を 届けたいんだ

僕らの歌は 世界に飛び出す
響かせよう 世界中に この歌を

ここは僕らの帰る場所 唄が響いてる
落ち込んだ時、辛い時 気づけば僕らまたここに

眠れぬ想いの歌が響いたら
雨音までも友と名をあげる
偶然のメロディーが君との糸
つながるときを呼ぶ
つながるときを ...

ここは僕らの帰る場所 唄が響いてる
落ち込んだ時、辛い時 気づけば僕らまたここに
僕らは歌うこの場所で

"そうぞう" 超え つながる僕らの歌 ...

作詞：T@ka*、サムコロ、バンズ、
sound play、川本康博(カフェキネマ)
編曲：高橋 作曲：T@ka*



Home

今日も響け僕らのメロディー
届け、今日もこの場所から

アーケードの下 ギターを弾いてる
オレンジ色の 灯りが眩しくて

シャッターの前が 僕らのステージ
ここでしか 鳴らない音がある

この場所で歌っている事で
誰かと繋がって
今日も響け僕らのメロディー
届け、今日もこの場所から

あの人の 背中に歌ってる
ドキドキするよ 誰かが立ち止まった時

シャッターの前が 僕らのステージ
ここでしか 響かない歌がある

晴れの日、雨の日、どんな日も
歌える場所がある
無限に広がる夢のファンタジー
どこまでも続け、この場所から

音楽でしか
表現できない僕ら
「ここで歌わせてくれてありがとう。」
感謝して、今日もまた。。。。

唄え、踊れ、繋がるメロディー
僕らの夢を乗せて
今日も響け僕らのメロディー
届け、今日もこの場所から

届け、この場所から

作詞：T@ka*、サムコロ
編曲：高橋 作曲：T@ka*

